

大原

大原は日本の古都、京都の北約 20km に位置する、周囲を山谷に囲まれた農村です。その昔は隔離された土地として、仏教の聖徒や賢者を魅了し、皇族を一族の内紛から保護してきました。

まちは、京都へと流れる高野川沿いの谷底に広がっています。小さな谷は分岐し、そこに寺や神社が建てられました。

この地域で最も古いお寺の一つである「寂光院」は、594 年に天台宗の尼寺として創建されました。

戦乱の続いた平安時代（794-1185 年）初期、京都の北東に位置する比叡山に寺を構えていた僧侶のリーダーたちは、修業に相応しいより穏やかな地を求めました。

何世紀にも渡る不慮の火災により、多くの木製構造物は焼失しましたが、中には焼失を免れたものや再建されたものもあり、日本の寺社建築や設計、日本美術の素晴らしさを伝えるものとして現存しています。

こうした中心的な崇拜の場には伝統的な庭園があり、いずれも国内屈指のものであり、国宝認定されている数多くの芸術作品の宝庫です。

また大原は、奈良時代（710-794 年）に天台宗開祖の最澄や天台宗僧侶の円仁、別名「慈覚大師」が日本に伝えた、僧侶が唱える声楽「声明（しょうみょう）」が、初めて行なわれた場所でもあります。

大原は皇族との関わりも深く、1185 年には戦いに敗れた平家の建礼門院が、寂光院に隠棲を求めました。同様に、858 年には惟喬親王が大原のまちを見おろす丘の中腹に埋葬され、後鳥羽天皇と順徳天皇は三千院の地に並んで埋葬されています。